

コア科目基礎講義「法学Ⅱ（法学入門）」（小谷担当）
行政過程・行政争訟論関連ゲスト講演（一般公開企画）

普天間・辺野古をめぐって ～「私たち」は何を失いつつあるのか～

講師：渡辺 豪（フリージャーナリスト）

なぜ基地を巡って国と県がお互いに相手を訴えあっているのか。
辺野古の海では市民と海上保安庁が、陸では市民と警察が対峙し
続けている。一度は当事者＝生活者の立場に身を置かなければ、
この行政裁判の意味を十分に理解することはできないだろう。
まずは基地問題の歴史と現状について認識を深め、そして沖縄と
いう視点から日本、ひいては世界の構造を眺め直す機会としたい。

2016年1月20日（水）9:00～10:30

お茶の水女子大学 大学本館3階306号教室

講師紹介：

渡辺 豪 1968年兵庫県生まれ。毎日新聞記者、沖縄タイムス記者を経てフリージャーナリスト。主な著書：『「アメとムチ」の構図：普天間移設の内幕』（沖縄タイムス社、2008）、『国策のまちおこし---基地の島沖縄：嘉手納からの報告』（凱風社、2009）、『波よ鎮まれ---尖閣への視座』（旬報社、共著、2014）、『日本はなぜ米軍をもてなすのか』（旬報社、2015）など。

参加自由・事前申込不要（当日配付資料を希望する方は事前にご連絡ください）

連絡先：小谷 眞男（生活社会科学講座、kotani.masao@ocha.ac.jp）